

受験シーズン到来

からす新聞

サイは投げられた

受験シーズンの到来だ。

高校や大学が人生を決定するわけではない。が、しかし、受けるからには力を出しきってほしい。合格者を選択するのは学校側だが、受験校を選択するのは受験生諸君である。ひとりひとりに尋ねてみたら、何と答えるだろうか。大切なのは受験校を選択するのも、そのために努力するのも(しないのも)そして、合格したらその学校に通うのも君たち自身である、という単純な事実だ。

第9号

発行所 東京都中野区中央5丁目1番2号西田ビル4階 〒164-0011 からす新聞本社 電話03-3382-5963 ©からす新聞本社
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

一九九九年がやってきた。
五島勉の「ノストラダムスの大予言」。この本はかなりのブームを惹き起こしたものだ。当時、小学校六年生だった(女)と思つた私は、今にも増して、その手の怪しげなものに弱い性格だったので、貪るように読んだ。確かにある意味では面白い本だった。その後、彼が書いた「ノストラダムス」は全て読んで(多分)。
一九九九年に、天変地異が宇宙人の来襲か戦争か、あるいは、新しい公害や病、とにかく、「恐怖の大王」という名の何かが出てくる、とノストラダムスの書の中に記されている。そう耳にしたことがある人も少なくないだろう。果たして、彼の予言(正確には、彼の詩)に対する研究者の「解釈」は当たるといえるだろうか。

世の中、わからないことばかりである。政治家の言っていることもわからないし、我が家を頻々と訪れる、向いの家の猫の考えていることもわからない。読みかけの本の結末もわからない(あたりまえだし)、電子レンジの仕組みもわからない。豊田がなぜ千種相手にタップしたのかもわからないし、普通に自転車走っているだけで職務質問される理由なんて皆目わからない。数限りなくあるわからないものの中

でも、その最たるものが未来であろう。明日の今頃、自分が何をしているのか。おそらく、今と同じようにコンピュータの前で頭を捻っていることだろうけれど、こんなことでさえ確実ではない。極端なことを言えば、一秒後に大地震が起きて、瓦礫の下に埋もれることになることさえ、ない、とは言いがたい。確実なこと、そんなものがあるのだろうか。

視点を変えよう。
あなたは、未来を知りたいだろうか、例えば、自分がいつどのように死ぬのか、などというのを。例えば、今年、野村阪神は優勝できるのか、というようなことを。私は、勿論、そんなことを知りたくはない。「十五分後には地球が爆発してなくなっちゃいますよ」あなたの心臓は朝までに止まっちゃいますよ」などと、神か死神か預言者か、誰かが私に耳打ちしてくれたい。「ああ、そうですか。それはご忠告ありがとうございます。そして、明日は暫く振りにカレーが喰いたいな、などと考えるにちがいない。暮れに出たXTCの新譜をまだ買ってなかったよな、などと、あるいは、からす新聞の原稿の締め切り、そろそろだな、などと思つてもいい。執れにせよ、十五分後に地球が消えてなくなると、ど

(八面に続く)

今日の紙面

- 二面(オーラ面) 松本と話そう、ピン、ボン、パン
- 三面(文化面) 鳥瀬画伯の似顔絵コーナー
- 中国へ行こう!
- 四面(米面) ヤンヒボ
- 五面(欧面) 新井遊一の天気予報
- イタリヤを漂流
- 六面(法面) ババ堀井の法律教室

からす新聞は学習塾カライズが母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行している新聞です。誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。



松本と話そう。ピン、ポン、パン

ということで、新年!! さあ、1998年の空気は、1999年の空気に入れ替わった。その空気が君を生かすも殺すも君次第。素敵な呼吸をしよう。

で、早速、今年のおみくじ報告といこう。

えーっと、基本的におみくじは、「大吉が出るまで引く。ただし、それは違う神社や寺で」ということにしている。何回目で大吉が出るか。これで、その年の運勢をを占うことにしている。

まず、1回目。川崎の「住吉神社」で。なんでそんなところで、なんて思うでしょう。俺だってそうだから。実は、これ、呼ばれたんだ。縁なんだ。実は、大晦日の夜、仕事のあと横浜で飲んだ。年越しは、世田谷用賀の自宅の予定だったので午後11:00には電車で帰路についた。(東横線)とても電車内は暖かく、新年を迎えんとする人たちの喜びの雰囲気居心地良かった。……。それが、「お客さん、降りて下さい、終りですよ!」という叫ぶおやじ(駅員)の声で台無しになった。周りを見ると誰もいない。がらんどうの車内はやたらに明るい。時刻を見ると、ほとんど真夜中の2時。「なんじゃ、こりゃ。」松田優作化してしまった。結局のところ、1999年の幕明けは横浜-渋谷間のどこかで、気を失ったままであったということだ。気が戻ったのは「元住吉」という駅でだったのだ。こんなのは初めて抱。絶対、何かあるぞ、今年。大魔王は本当に来るかもしれない。そうじゃなくとも、テポドンぐらいは来るかもしれない。

しばらく「ポーッ」としてると、開きっ放しのドアの外から快い音の響きが流れ込んでいた。「ピーヒョロロピーヒョロロ、チンチンタンタン、チンチンタン」昔話に狐に化かされたかのように、或いはショッカーの蜂女と呼ばれるかのように引き寄せられていった。するとそこはまるで別世界。人の波・波・波。そこが、初詣をやることになった「住吉神社」だったのだ。そしてそこで、一回目のおみくじを引くことになったのだ。

さて、その神様が与えてくれたメッセージは?

「小吉。」

まあ、いいや、次がある。

ということでその後、辺りをうろろうろしていると、地下に潜っていく、funk/soul系の飲み屋があって、入り口のところで観察してたら、常連の客なんだろう、酔っ払いまくった、兄ちゃん達が「朝まで振る舞い酒出してんで、一緒に飲みましょうよ。」なんつって肩組んで来たんでこれも流れだと思っちゃっていった。狭いけど、その系のクラブっぽい風味で、カウンターの中にいる姉ちゃんがやたらと、気に障ることが全くない。自然体がポジティブに元気(アフロヘアーしてて、ガングロだったけど)、こんなところの誰だか分からないような俺に、いきなり酒を振る舞ってくれた。瓶を前に、「ガン」と置いて、「A Happy New Year!!」なんつって日本酒を目一杯。

すごく、こりゃまた、不思議な世界だったよ。店のデカさとは反比例の巨大スクリーンには北欧だかどっかの、怪し気なTV番組が絵だけ映し出され、空間じゅうに響いてるのは、パーラメントだの、スライ&ファミリーストーンだの変態入っている70年代ファンクであるし、いたるところで兄ちゃん姉ちゃんがギャーギャー、奇声を上げているし、下見してみると、上半身裸で酔いつぶれている野郎もいるし、カエルのぬいぐるみ着た奴が通り過ぎて行くし、黙っていると、知らない奴らが握手求めて来るし。そして、そんな中、目の前には升一杯の日本酒だし。

実は、こんな自分もちょっと変だったのかもしれない。ネクタイ締めて、コート着て、片手にはカバン、そしてもう片方の手にはでっかい焼きイモを握っていたのだ。(住吉神社の裏で売っていたものを、1/3ぐらいかじったままそうしていた。)

寄って来たよ。喰い着き良かったよ。色んな連中が、「あ、うまそ、一口、一口。」って次から次に。(さすがに、「おじさん僕にも」つつた奴には正月とはいえ、くれなかったけどね。)

話、それだね。とまあ、こんな不条理な具合で1999年を迎えました。やっぱ、不条理になるんでしょう。1999年は。

さて、その日の午後、頭の中、万華鏡状態で用賀の自宅に戻っていた

ピンポンパンは、ろくに睡眠も取らず、「大吉」を求めて、行きつけ?の玉川大師へと向かった。ここのみくじは、常に厳しい。厳しいけどなかなかツボを突いて来る。神妙な気持ちでみくじを引いた。ここで、こんなことが。名の通り、「大師」なわけで、密教系のお寺なんだけど、まず、数ある棒を箱の中から1つ取り出した。そこには、確かに、「三十八番 凶」とあった。次に、番号が記されている箱の中から、メッセージが書かれている紙のみくじを取り出したのだが、何と、「三十八番 吉」とあるじゃないか。もちろん、凶であったなら、凶であるはずなのに。自分の読み間違いか、取り違いか分からないが、いづれにしろ、結果は「吉」だったのだ。実は、前もここではこういうことがあった。さあ、これをどう解釈しよう。相変わらず、自分を試す、「玉川大師」だ。

そして、次は、一番近所で、一番ピンポンパンには優しく接してくれる「用賀神社」。これまで常に「大吉」。さて、今回は?.....やっぱ「大吉」。なんか、こう、受け入れてくれてるのかな、みたいな安心感がある。「玉川大師」は父的な、「用賀神社」は母的なものを感じる。

今年は、3回目で、やはり「用賀神社」で「大吉」という結果でありました。つまり、今年の運勢は、「並」ってことでしょう。そして、「天=神=自分を生かしてくれている大きな力」の全体的なメッセージは、

「良き人の引立にあずかり立身出世する(玉川大師/用賀神社)

「転居は好機、急ぐがよろし/旅立よし(住吉神社/玉川大師/用賀神社)

「恋愛は心身を捧げ情熱を持たば神意により整う、愛情を信じなさい」(住吉神社/用賀神社)

なんだって。実は、こないだ引越したんだけどもどうやら良かったみたい。それ以外、どーなんだろーね。

皆さんはいかがでしたか?

明鏡止水の状態で天のドアをノックすると、ちゃんと音は返って来るとピンポンパンは常日頃、感じている。正月は特にそれにふさわしい日として、あるように思える。

ということで、365日の1分1秒それぞれが、Love & Peaceで満ちていればなあ、と願います。「夢見てんじゃないかって、皆言うだろうけど、そう願ってんのは、自分1人じゃないと思う。そう言う人が、そのうちこっちの側に来ればいいね。そうしたら、本当にそうなるのにな。」「(ジョン、パクッた。)」Peace & Love & Understandingの何がおかしいってんだよ(コステロ、パクッた。)

こう願うのはそれが自分には足りてないってことなんだけどね。

ダジャレイヌーヴォー

今月のお題

入試・合格・卒業

入試の乳児 (ピンポンパン)

「合格」はこう書く (ピンポンパン)

躁鬱病を卒業 (ピンポンパン)

広告掲載希望者は当社広告製作部まで御連絡下さい。

中国料理

コウ テン エン
廣 天 園

好味好香

中国へ行こう!

中井 裕子

第4回

町の中を歩いてみる

中国人の朝は早い。

AM6:30となれば既に活動し始めていて、街の大通りは多くの人で埋めつくされるのです。そんなバイタリティーにあふれた彼らが市場をにぎわせているのは言うまでもありません。

その中を歩いてみると、路上の所々で野菜、果物、雑貨用品などが売られているのを見かけました。(これを自由市場というらしいです。私達は何度も店の人や、その周辺の人、ただの通行人にまで話しかけてみました。

中国人の中には短気の人が出て、こちらがしどろもどろに話すと、いらいらしたり、げんなりした顔をしたりしますが、相手にわかるまで話し続ければ、たいていの人には私達に興味を持ち始め、まるで知り合いであるかのように接するようになります。

日本人と中国人は似たような顔だちではありますが、この時に、私達とは違う民族であることを改めて感じました。

鳥瀬画伯の似顔絵コーナー



堀口先生

Rei's Gallerly

今回は休載です。Rei画伯は、上野付近で目撃されたとの証言もあるが、インドへと旅立ったとの観測もあり、情報が錯綜。目下われわれも調査中である。

Ken-ichi Shinozaki, architect



「高齢の方のための介護つき住宅」

5-12-3 Asagaya-Kita, Suginami-ku, Tokyo,
Telephone & Facsimile: 81-3-3223-0456;
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp

篠崎健一アトリエ

アクアネット

Let's mind the harbour!



湊文社
SOBUNSHA

交和パレイユ

Kowa Pareille

祝福の宴の演出を
してみないか。

03-3371-8264

All

We

Need

Is

Love

ぼくたちは明日生まれる

03-3220-4679



<http://www.go-zeta.com/>

ヤンヒポのホントとウソ

アメリカにはヨダレの出るようなテレビ局が山ほど有る。20世紀FOXやパラマウントピクチャーズなど映画制作会社がテレビ局を運営しているのだ。X File、ER、TNG(スタートレック)、ミレニウム、エルビス。日本でもお馴染みのドラマをリアルタイムでやっているわけだ。当然といえば当然なのだが、何故かわくわくしてしまう。通常、日本で公開されるハリウッド映画は半年以上前に本国で公開されており、その後テレビネットワークに流れる。そのタイミングは日本での公開より早い。結果的に本国のテレビで見た映画が日本に帰ってくるとやっと封切りになる。

本国で見る場合は日本語字幕などは無い。何を隠そう自分の日本語以外の発声読解力は少々寒い。その分面白い経験ができる。一本の映画を最初は全く救いの手が無い状態で見る。二度目は日本語字幕付きの答え合わせだ。それを全部で4本の映画で体験した。

映画というのはいうまでも無く面白い物で、ジャンルによって言葉が解らなくてチンプンカンプンの物もあれば、言葉が解らなかった事でさえも忘れていた物もある。例えば、最近公開されたX File劇場版。見ていない人間にはピンと来ないかもしれないが、全編一貫して一つのテーマに関連したストーリー展開をしている。(ただ、その事が解ったのは日本語字幕版を見てからだ...) 劇中前半にピルの爆破シーンがあるのだが、それ自体が大掛かりな事実の隠蔽工作だったのだ。しかし、その関係は後半主人公の口から語られるという形で判明する。言語に寒い自分はその部分を完全に聞き逃していた。別なドラマでは、ある有名歌手の青春時代を物語にして若年時代からうよきよせつを経てメジャーになる半生を描いている。こちらは、今でも記憶の中に鮮明なストーリー展開と主人公が発したであろうセリフが中枢神経にこびりついている。どちらも派手なアクションというよりも人間同士の対話をメインに進んでいくストーリーなのだ。

今思うに、言葉というのは重要なコミュニケーションの道具ではあるが、それが全てでは無い。当たり前の事もかもしれないが、発する人間の精神状態、情熱、顔つきなどで、相手に伝わるニュアンスというか、伝わる力が格段に違ってくる。役者の善し悪しもそこに重要なポイントがあるのだろう。自分の英語力を棚に上げてX Fileのデビット・ドゥカブニーを低レベルだという気はさらさら無いが、やはり発する人間の力量は重要だと思う。

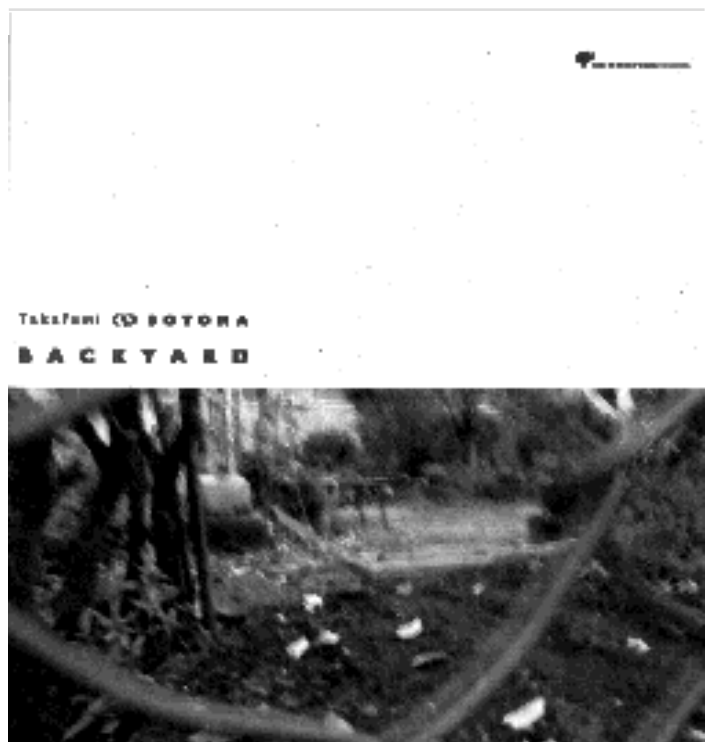
言葉という物が音だけでなく、そこに込められる感情で伝播力が変わってくるという事になると、日常生活でも随分影響があるはずだ。例えそれが、外国語同士であってもだ。自分が渡米してからもなんだかんだとやって来られた中にはこうした力が少なからず働いているのだろう。兎に角、飛行機に飛び乗ってL.A.の空港に降り立ってから生活基盤を築くまで約半月。当然英語力が3倍になる訳ではない。それでもアパートを借りる交渉から銀行口座開設、車の購入から登録、運転免許の取得まで、日本語が通じる

所は一つもない。しかし、相手が目の前にいれば何とかなる。俗に言う、気持ちが伝わるってやつかもしれない。ま、相手も解ろうとするからなのだろう。そんな中で苦労したのは電話でのやり取りだ。これは相手の発する音が頼りのコミュニケーションなので、感情が伝わりにくい。逆に、伝わりにくい分正確に音を発しないと誤解を招く事になる。実際問題はほぼ理解不可能であったのだが...

しかし、語学を学ぶということはこの部分もかなり重要な要素になるのではないかと。この部分といのは、言葉の裏側にあって伝わる部分だ。これはその国の文化や宗教、生い立ちに密接に関係してくるだろう。自分が過去に学んだ英語は文法や単語ばかりで相手の考え方や感じ方は残念ながら教えてもらってない。ただ、英語を学んだ要因は入学試験で良い成績を取るためだったのであながち間違っていたとは思わないが、それ以上の事は学ぶ必要性も学習しなかった。この度はたまたま海外へ行く機会があったので実体験として経験したが、それが無かったら未だに問題意識すら持っていないところだ。日本国民の大半は生きて行く上で日本語以外の言語が必要になるケースが沢山有るとは思えないので全員に押し付ける必要は無いだろう。島国なのだから飛行機が稀に船にでも乗らないと決めれば全く必要無い。しかし、これからは通信技術の発達の有っても衰退はあり得ない。世界がどんどん狭くなって行くなかで島国だと言い張っても現実には許してくれないはずだ。どんどん矛盾していき、その矛盾が今の日本や世の中を支配している。少なくとも今有る常識が良識であるかどうかを自問自答しないと寒い事になりかねない。知らぬが仏という言葉が有るが確かに真理だと思う。ただ、最期まで知らないでいられるかどうかは誰にも解らない。今の日本は知ってしまったのになんとか気がついていない事にしようとしている気がする。そう言い張っていられるのもいつまでか楽しみに見守ろうと思う。

最期に、日本は法治国家で安全だという常識は常識でも良識でも無く妄想である事を付け加えておこう。これホント。

全太大先生様大々推薦



『裏庭』外間隆史

ジェマティカ・レコード RSCG1002

中山歯科クリニック

診療時間AM9:00 ~ PM9:00

水曜・土曜AM9:00 ~ PM6:00

休診日・祭日

03-3381-1109

原点シミュレーションその三 (イタリア編)

原点企画も三回目。教科書に増殖中の英会話表現ですが、使わないで忘れてっちゃいます。そんなら少なくともいいんで、あいさつとか、人間同士の会話において原点とも言える表現を学ぶため、ヨーロッパを漂流中。(望月)

"The sun and the moon are eternal wayfarers." 「月日は百代の過客」をそんなふうに訳していたのは誰だったか。漂白の思い止まず、イタリアにさすらへ。僕はアッシジ駅にいる。少し離れた緩やかな丘の中腹に、帯のように細長く小さな町が見える。腹減った。食堂らしき看板を見つけたんでとにかく入ってみよう。

ブオンジョールノ Buongiorno

いつも陽気なイタリアの人たち。挨拶するときは、やっぱりこちらも元気よく。さあ、思い切り息を吸って、にこやかな笑顔で...

サッカーだ。老若男女サッカーだ。張り切ったはずの僕の声は声援に掻き消され、店のおやじにすら届いてはいなかった。

街中はフランチェスコの教会目当ての観光客であふれかえっている。僕は雑踏を避けて丘の頂上を目指した。少し坂を上ると、そこは一面のオリーブ畑。僕はオリーブの林を縫うようにして頂上に続く道をひたすら歩く.....。あれ? 何でこんなところに金網の柵があるんだろう。しばらく歩いても柵は途切れない。もしかして誰かの家に迷い込んでしまったのだろうか。

「ウ~~~~ワンッ!ワンッ!ワンッ!」

うげっ。犬だ。番犬だ。やっぱ他人ん家に入ってたんだ。逃げろ! 金網の柵れ!

スクージ Scusi

これは「ごめんなさい」。不法侵入は君の方。まずは謝っておきたい。

痛ててて。寸前のところ、かすり傷程度で助かった。しかし、柵で囲むならぐるりと囲む、囲まないなら犬など放さない、どっちかにしといてもらいたいもんだ。

「ワンッ!ワンッ!ワンッ!ウ~~~~~~~ヘッヘッ」

とにかく家主が出てくる前に逃げるに如かず。

アリヴェデルチ Arrivederci / チャオ Ciao

これはイタリア語で「さようなら」。逃げずともよい。別れの挨拶を。

(つづく)

新井の世紀末天気予報

東京では、今日(1/13)で20日間、雨が降ってない。明日も降らなければ(降雨が観測されなければ)、不降雨最長記録らしい。これは、西の高気圧、東の低気圧が、がっぴり四つに組んで動かない為で、逆に日本海側では、記録的な大雪ということになる。らしくないのが流行の近頃にしては正常な現象も、20日間も続くと、観測史上(たった124年ではあるが)例がない異常現象ということになってしまう。

1998年は、観測史上、最も年平均気温が高かった年だそう。また、高い順に並べてみても、90年代がずらずらと出てきてしまうことから、間違いなく地球は温暖化に向かっており、その急速さから、人類がその原因をつくりだしていることは否めない、と言うのが一般的な見方の様だ。こんなことは不自然というわけだ。

ドイツは、環境問題にとっても熱心な国で、自然保護に関しては、ユーロと同様、大將的存在だが、その徹底ぶりには限度がないというか、やり過ぎというか、国民性がよく表れている。以前、あるドライバーが信号待ちで停車している間、車のエンジンを切ったら、みんな真似をして、あっと言う間に全国に広がった、という話を聞いて驚いたことがある。エンジンを切らなかつたらどうなるか、君たちがドイツに行って、車を運転する機会があつたら、試してほしい。但し、彼らのルール作りは早いので、白い目で見られるだけでは、済まないかもしれない。何れにせよ、自然の保護者として歩いていく道を、ドイツは、ドイツ人は選択したと言えるだろう。

日本も、ドイツに負けず劣らずの先進国である以上、この問題は避けて通れないが、決して焦る必要はないと思う。右へ習えは安易な選択だ。人類は自然を守る義務がある決めたつけや、全ての人にとって一義的な問題であるかの様な議論を、新聞やテレビでよく見聞きするが、そこには誰の顔も見ることができない。自然観も一義的なものも、人それぞれ違うはずだ。また、本来、客観的事実だけを伝えれば良いはずの報道(天気予報も含む)で、異常と言ったから異常なのだろうか? もし君がそう思うのなら、それこそ私からみれば、不自然と言いたい(あくまで君の自由)。寒がり、暑がり、肉好き、魚好き、菜食主義者、同性愛者、釣り好き、山好き、はたまた東京の排ガス臭い空気をこよなく愛する者まで、人は様々である。海や大気が世界に繋がっている以上、日本だけの問題ではないにせよ、まずは、東京の、杉並区の、或いは中野区の、私であっていい。考えられる、選択できるという点ではドイツ人も日本人もない。

今月のみんなのうた

アイロニー

若尾喜重

かつて 思想家で有名なY氏はこう云った
「一度 私が口を開くと 世界は氷つくたろう」と

口を開けば よかつたのだ
時給 八百円で働いている人達が 多くさん
いることを

世界を 氷らせれば よかつたのだ
他人の優越感も 私の悪意も
貧しき人々は 冬眠を願うであろう

夢の中で つつましい安息を 願うであろう
雪解け後の春のせせらぎや れんげ草の
可憐さを待ちながら

過去の 楽しき日々を 夢みながら 眠りながら
未だ 生きていることを 知らしめたいのだ

揺籃

佐藤良示

花びら散って落ち葉の絨毯
古枝は枯れて寂しくとも
大空に舞い上がる希望の凧

とんで行くとんで行く春の訪れに!
水すまし泳いでお池のお城
道草背伸びして日向ぼっこ

大空に舞い上がる幸福の燕
とんで来るとんで来る夏の訪れに!
鰯雲眺めて夢心地夢の中秋祭り

神楽太鼓
大空に舞い上がる赤蜻蛉
とんで行くとんで行く秋の訪れに!

パパ堀井の法律教室

2回に亘ってクーリング・オフについて述べてきましたが、話をもとに戻します。

今回は、未成年者と取引をした相手方の保護についてです。未成年者である望月君にバイクを売ったカラスモーターズのオヤジさんはこの契約を取消される虞れがあることを説明しました。でもバイクを貰うお客さんは未成年であることが多いでしょうから、ただ「取消されるかもしれない」とハラハラドキドキしながら待っているしかないとなると余りにも酷です。損害はカラスモーターズのオヤジさんが負担するのですから、特に納車してしばらくしてから取消されたのでは堪ったものではありません。

そこで登場するのが「催告権」というものです。これは、取消すのか追認するのか早く決めて下さい」と、相手方に催促することができる権利です。このときにどうするか答えてくれれば、もちろん問題はありませぬ。「取り消します」とか、「追認します」とかって言うてくれればいいんです。でも、無回答で何も言っていないと、やっぱり同じ状態になりますよね。いつまでたっても宙ぶらりんっていうことになります。そこで、この場合どうするかというのが一九条に出ています。

第十九条 無能力者ノ相手方ハ其無能力者力能力者ト為リタル後之ニ対シテ一ヶ月以上ノ期間内ニ其取消シ得ヘキ行為ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ無能力者力其期間内ニ確答ヲ發セ

サルトキハ其行為ヲ追認シタルモノト看做ス

無能力者力未タ能力者トナラサル時ニ於テ法定代理人ニ対シ其権限内ノ行為ニ付キ前項ノ催告ヲ為スモ其期間内ニ確答ヲ發セサルトキ亦同シ

特別ノ方式ヲ要スル行為ニ付テハ右ノ期間内ニ其方式ヲ踐ミタル通知ヲ發セサルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス

準禁治産者ニ対シテハ第一項ノ期間内ニ保護人ノ同意ヲ得テ其行為ヲ追認スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ準禁治産者力其期間内ニ右ノ同意ヲ得タル通知ヲ發セサルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス

これ見るとわかるんですけど、何も言わない場合に、「追認したっていいことになる場合」

(一面の続き)

うなるつと、「今の私には関係のないことなのだ。私は未来に生きているのではなく、今ここに生きているのである。」

また、物事にはわからないからこそ面白い、という側面もある。次はどうなるのだろうと頁を繰る手もどかしく感じるのも、わからないからこそさだるつ中には、結末がわかっていても面白い、秀逸な小説や映画もあるけれど。私たちが今ここで齟齬しているのは、

明日が、未来がわからないからなのではないか。運命が決まっていって、自分が何をどうしようとも決められたレールの上をただ進むだけだとしたら、どうだろう。あなたはその状況下で何をやるだろうか。それでも、ポジティブに思考、行動できるだろうか。問いかけてはみたものの、実のところ、一般的な結論を下すのは不可能である。各人が各人の方法論を選択するしかない。

合」と取り消したことになる場合」がありますね。どういふときに追認で、どういふときに

取消しかつていふのが、十九条の1項から4項までバラバラに書いてあります。わかりにくいですね。しかし、これには一定の原則があります。無回答の時に、

その回答者がいまだにまだ無能力だった場合には追認を拒絶したことになります。逆に回答者が能力者だったときには追認したことになるのです。

この点について、詳しくは次回で。

Daddy's Law School

一応、ノストラダムスの大予言に関する個人的な見解を述べよう。当たるとすれば、私は人類の歴史の中でもかなり大きな出来事の目撃者となるわけで、それはそれで嬉しい。当たらなければ、人類の平和と安住に乾杯すれば良い。そんなスタンスだ。世紀末を盛り上げるイベントの一つとして歓迎したい。

一九九九年がやってきた。

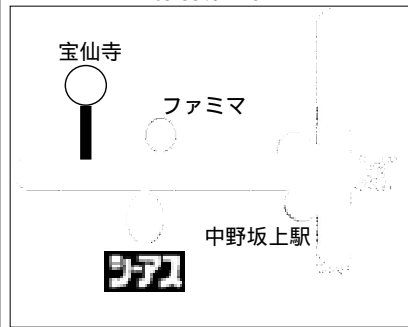
まず思うことは、何よりも、そんなに多くの時間が過ぎていったのかな、ということだ。ノストラダムスとの邂逅から、大雑把に言って、二十五年という月日が流れた。二十五年といえは四半世紀。気が遠くなるような年数だ。予言よりも何よりも、過ぎ去った二十五年の方が、私にはよほど夢のようである。

(全太)

1クラス4人までの少人数制学習塾



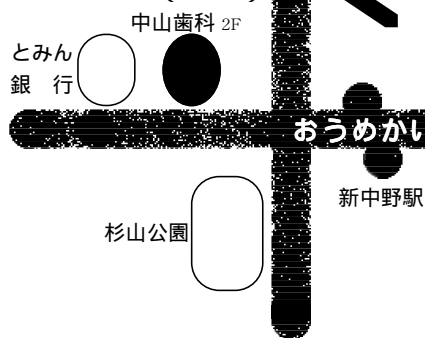
中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451



編集後記

からす新聞第九号、無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発行予定日は二月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

当社/カラーズ (4F)



来社見学を御希望の方は左記のところへ。丸ノ内線新中野駅徒歩〇分